

H.U.GROUP CORPORATE PROFILE

OUR MISSION

ヘルスケアにおける 新しい価値の創造を通じて、 人々の健康と医療の未来に 貢献する

H.U.グループは、人々の健康に関わるさまざまな場面で、
一人ひとりの安心を支えています。
これからも、新しい価値の創造を通じて
あなたの健康と未来の笑顔に貢献していきます。



さらに詳しい情報はこちらをご覧ください >



「医療インフラ」 としての役割への コミットメント

検査を止めない
手術を止めない

サイエンス・ 技術に基づく イノベーション

日本と世界に
新しい価値を創造する

競争よりも 協業／パートナーシップ

価値ある製品をいち早く世界に
海外のイノベーションを
いち早く日本に

トップメッセージ

会社のあゆみ

目指す姿

疾患別
グループ戦略3つの事業と
価値創造の源泉数字で見る
ECグループ

会社概要

トップメッセージ

TOP MESSAGE

技術の力で
世界の医療に貢献する

75年以上にわたり、医療と検査の発展に向き合ってきた当社グループは、これまで築き上げてきた基盤をもとに、次のステージに向けてさらなる成長を実現してまいります。技術に支えられた事業を核に、グローバルな視点で価値創出を実現するとともに、持続的な成長と社会への貢献を通じ、医療と検査のさらなる可能性を広げてまいります。

H.U. グループホールディングス株式会社
取締役 代表執行役社長 兼 グループ CEO



米TIME誌の「最も影響力のある医療リーダー100人」に選定

石川は、米国TIME誌が選出する「TIME 100 Most Influential Leaders in Health (TIME 100 Health) 2026」に選定されています。従来の検査法より侵襲性の低い血液検査の開発を推進し、アルツハイマー病の早期診断・治療の可能性を広げた点が評価されたものです。

[米TIME誌特設ページ] <https://time.com/collections/time100-health-2026/>

会社のあゆみ

OUR HISTORY

1950-2009

PICK UP
INNOVATION

1966 富士レビオ

世界初の梅毒検査製品
「梅毒HA抗原(TPHA)」を
開発、発売

診断薬の製造・販売を開始。富士レビオの
検査薬第一号の製品は、当時まだ信頼性
の高い診断方法が存在していなかった梅毒
に対する、世界初となる臨床検査薬。



PICK UP
INNOVATION

1992 富士レビオ

全自動化学発光酵素
免疫測定装置
「ルミパルス®1200」発売

それまで国内では手作業が一般的であった
免疫検査の自動化と高感度での測定を実現。



1950

富士臓器製薬株式会社設立

1950年12月18日、医薬品の製造・販売を目的として
東京都新宿区下落合にて設立。

1983

富士レビオ株式会社に社名変更

1987

富士レビオ東証一部上場

1998

Centocor Diagnostics of Pennsylvania, Inc.
(現 Fujirebio Diagnostics, Inc.) を子会社化

米国セントコア社の診断薬事業
部門を買収し、その後、海外での
原材料供給、CDMO事業参入。



2000

医薬品事業を売却
診断薬事業へフォーカス。

2005

みらかホールディングス株式会社を設立



1970

株式会社東京スペシャル・レファレンス・
ラボラトリー 設立

臨床検査薬事業で培った技術と
知見を活かし、特殊検査に特化
した臨床検査の受託を開始。後
に一般検査へと事業領域を広げ、
国内最大の受託臨床検査会社へ
と成長。



1989

株式会社エスアールエルに社名変更

1995

遺伝子・染色体解析センター開設
1987年より受託を開始した遺
伝子検査や染色体検査のニーズ
の高まりを受け、遺伝子・染色
体検査に特化した解析センター。



2001

エスアールエル東証一部上場

PICK UP TOPICS

1987 エスアールエル

日本初CAP取得

国際化への歩みを進めるために、CAP(College
of American Pathologists:アメリカ臨床病理
医協会)の認定を受け、日本で初めての認定を
「Excellent Laboratory」として取得。



1987

日本ステリ株式会社設立

1991

院内滅菌事業の開始

それまでの院外滅菌に加え、顧客のニーズにこたえ
る形で、病院内での医療器材の洗浄・滅菌、管理をス
タート。

OUR
MISSION

トップメッセージ

会社のあゆみ

目指す姿

疾患別
グループ戦略

3つの事業と
価値創造の源泉

数字で見る
エコグループ

会社概要

会社のあゆみ

OUR HISTORY

2010-

PICK UP INNOVATION

2020 富士レビオ 新型コロナウイルス 抗原検査で 国内初・世界初を実現

エスプライン® SARS-CoV-2で国内初となる抗原定性検査の製造販売承認に続き、ルミパルス® SARS-CoV-2 Agで世界初抗原定量検査の製造販売承認を取得。

- 2010
ベルギーのInnogenetics N.V.
(現 Fujirebio Europe N.V.)を子会社化



- 2017
合同会社みらか中央研究所(現 合同会社H.U.グループ中央研究所)を設立

- 2017
富士レビオ・ホールディングス
株式会社設立



2020

H.U.グループホールディングス株式会社へ社名変更

ヘルスケアグループとして事業領域を拡大。

- 2022
ADx NeuroSciences N.V. (ベルギー)
(現 Fujirebio Europe N.V.) および
Fluxus, Inc. (米国) の子会社化

2023

H.U. Bioness Complex 全面稼働

世界最大級の検査ラボラトリー。R&D拠点を併設したH.U.グループの中核施設。検査工程の大部分を自動化。



- 2010
株式会社日本医学臨床検査研究所を子会社化
- 2011
株式会社ツチヤ・エンタプライズ
(2012年 株式会社北信臨床へ社名変更)を子会社化
- 2011
株式会社群馬臨床検査センター
(2018年 株式会社エスアールエル北関東検査センター
へ社名変更)を子会社化

- 2017

- 2025
検査・関連サービス(LTS)事業会社3社を統合

日本医学臨床検査研究所が北信臨床、
エスアールエル北関東検査センターを吸収合併。

PICK UP TOPICS

2018 在宅事業 (訪問看護など) 開始



PICK UP TOPICS

2020-2021 エスアールエル 全国の主要空港での 新型コロナウイルス 検査検査を実施

国内の民間企業として初めてSARS-CoV-2 PCR検査の受託を開始。また、入国者が増加する空港で検査検査を実施し、水際対策に貢献。

PICK UP TOPICS

2024 StarQガイア株式会社を 設立

StarQケア株式会社と株式会社ガイアメディケアを子会社化。訪問看護サービスを主とした在宅事業の拡大とサービス向上。

積み上げてきた技術力・開発力で イノベーションを創出

H.U.グループでは、未来の医療・ヘルスケアのあるべき姿を想像し、新たな価値の提供を目指したR&D活動に取り組んでいます。長年にわたり培ってきた各事業の技術力・開発力により、オンコロジー（がん）、NEURO（神経疾患）、感染症をはじめとするさまざまな疾患領域で、医療現場のアンメットニーズに応える診断・検査技術を生み出し続けています。こうした取り組みのひとつが、富士レビオグループのアルツハイマー病への取り組みです。有効な治療薬がなかった時代から、いち早く同疾患の診断技術開発に取り組み、1995年にアルツハイマー病関連検査試薬を開発・販売開始して以来、30年以上にわたりNEURO領域の研究開発を続けてきました。



アルツハイマー病の診断補助を目的とした血液用体外診断用医薬品

血液によるアルツハイマー病関連検査試薬 — 世界初 米国FDA承認取得

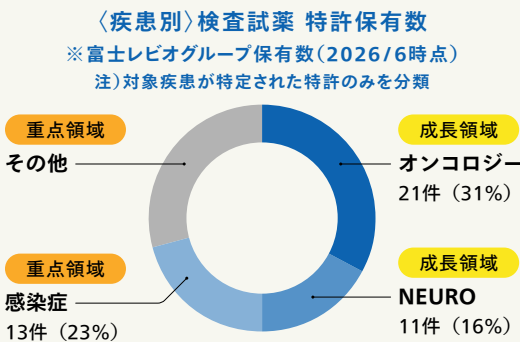
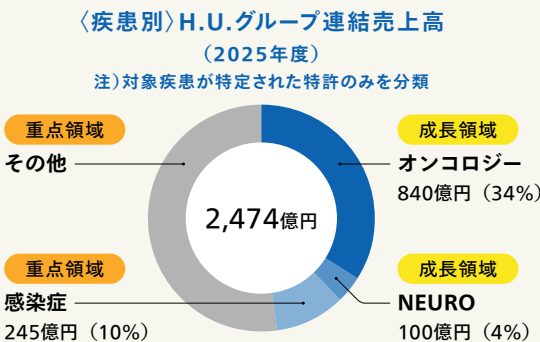
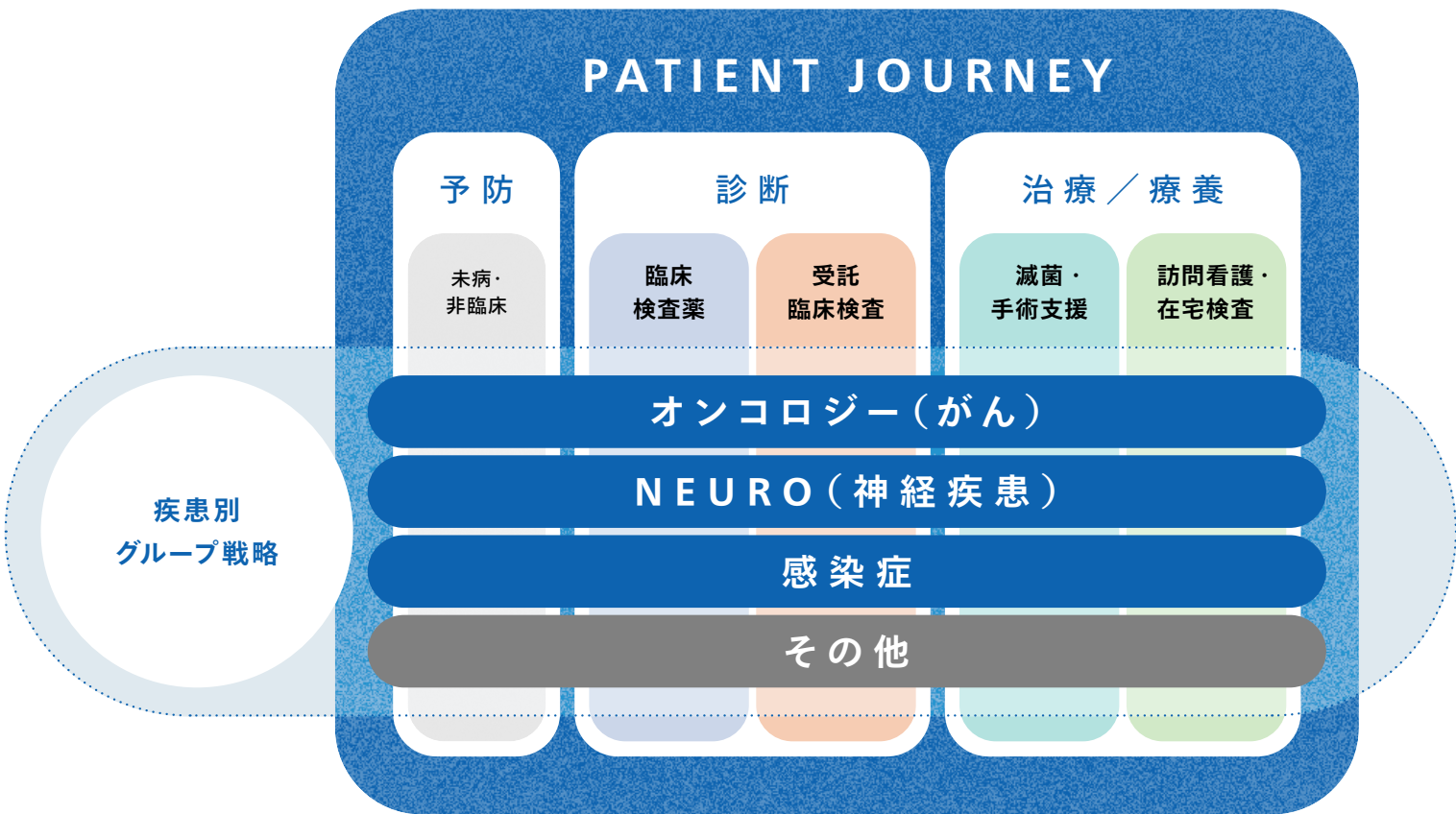
2025年5月、血漿中のpTau217とβ-アミロイド1-42の比率を測定する検査試薬が、アルツハイマー病の診断補助を目的とした血液用体外診断用医薬品として、世界で初めて米国食品医薬品局（FDA）より承認を取得しました。これまで用いられてきた脳脊髄液検査等と比べ、簡易かつ侵襲性の低い血液検査での治療方針の検討を可能にしています。さらに2026年には、欧州において、pTau217を測定する検査試薬について、体外診断用医療機器規則（IVDR）に基づくCEマーキングを取得するなど、世界中の関係機関と連携しながら、アルツハイマー病をはじめとしたNEURO領域における製品ラインアップの拡充を加速しています。



PATIENT JOURNEYに寄り添う
OUR STRATEGY

疾患別 グループ戦略

H.U.グループでは、病気の予防から診断、治療と療養に至るまでのPATIENT JOURNEYに、グループとして寄り添い、各社の強みを活かしてアンメットニーズの解決に努めています。世界的に患者数が増加し、社会問題となっているがんや認知症などの疾患領域において、検査や治療のニーズに対してどのように貢献できるか、グループ横断で疾患ごとの戦略を策定しています。



H.U.グループは、成長領域であるオンコロジー、NEURO、重点領域である感染症のほか、幅広い疾患領域で事業を展開しています。特に富士レビオグループでは、これらを含む複数の疾患領域において検査試薬に関わる特許を有しており、疾患別の事業戦略と連動した研究開発を進めています。

疾患別戦略

成長領域

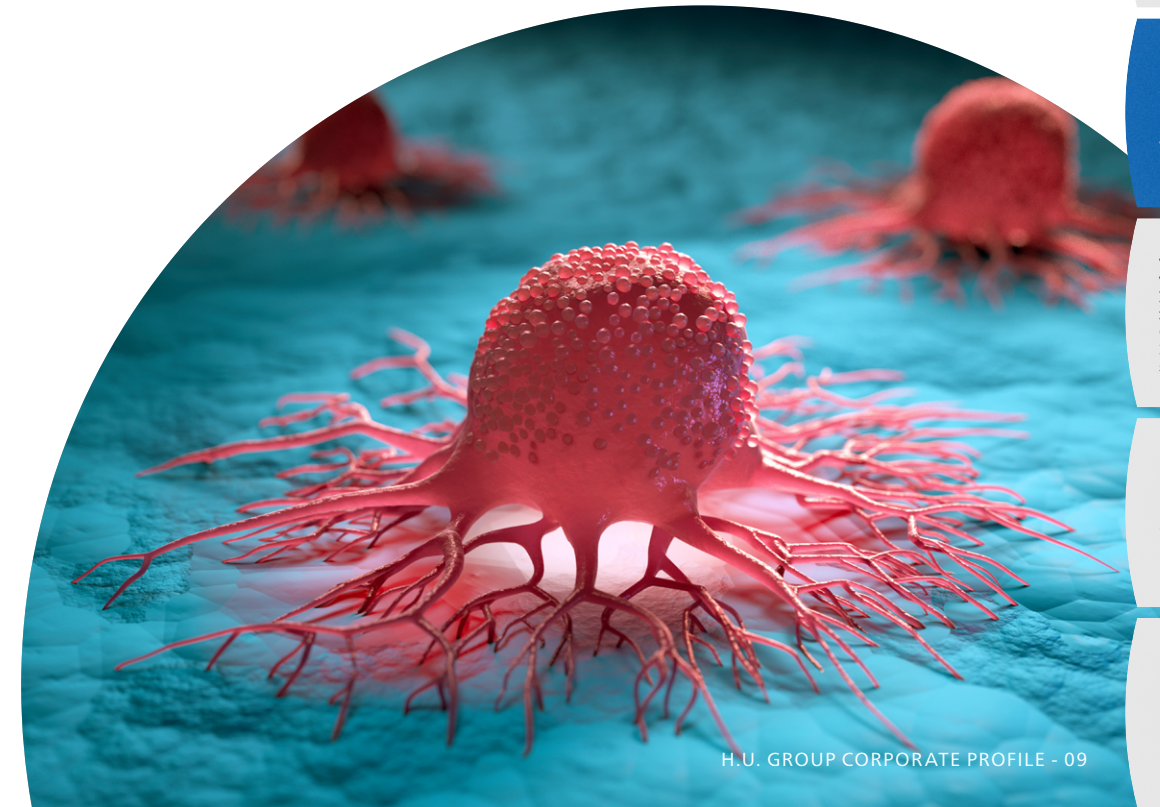
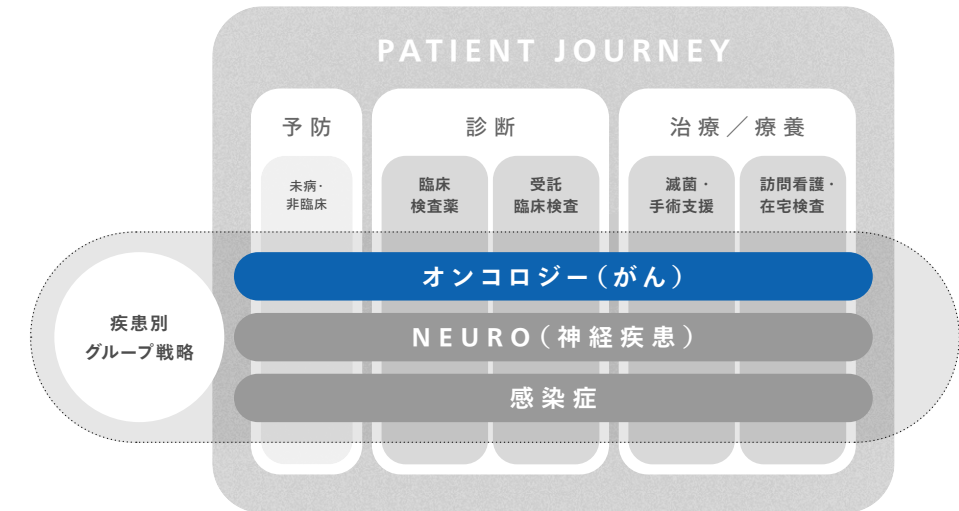
DISEASE-SPECIFIC STRATEGIES

オンコロジー（がん）

がんの早期発見から治療後までを支える

がんは、世界的に高齢化が進んでいることや日本における死亡原因の第1位であることを背景に、早期発見や個別化医療、治療後の経過把握の重要性が高まっている疾患領域です。H.U.グループは、こうした医療の流れをとらえ、検査を通じたがんの早期発見や治療への貢献、そしてその後の経過を見守るための取り組みなど、各事業の強みを活かしながら幅広いニーズに向き合っています。

- 早期発見・治療効果モニタリング用腫瘍マーカー関連試薬の国内外への供給
- がんパネル検査による治療法選択の支援
- 医療器具の滅菌、手術室支援



疾患別戦略

成長領域

DISEASE-SPECIFIC STRATEGIES

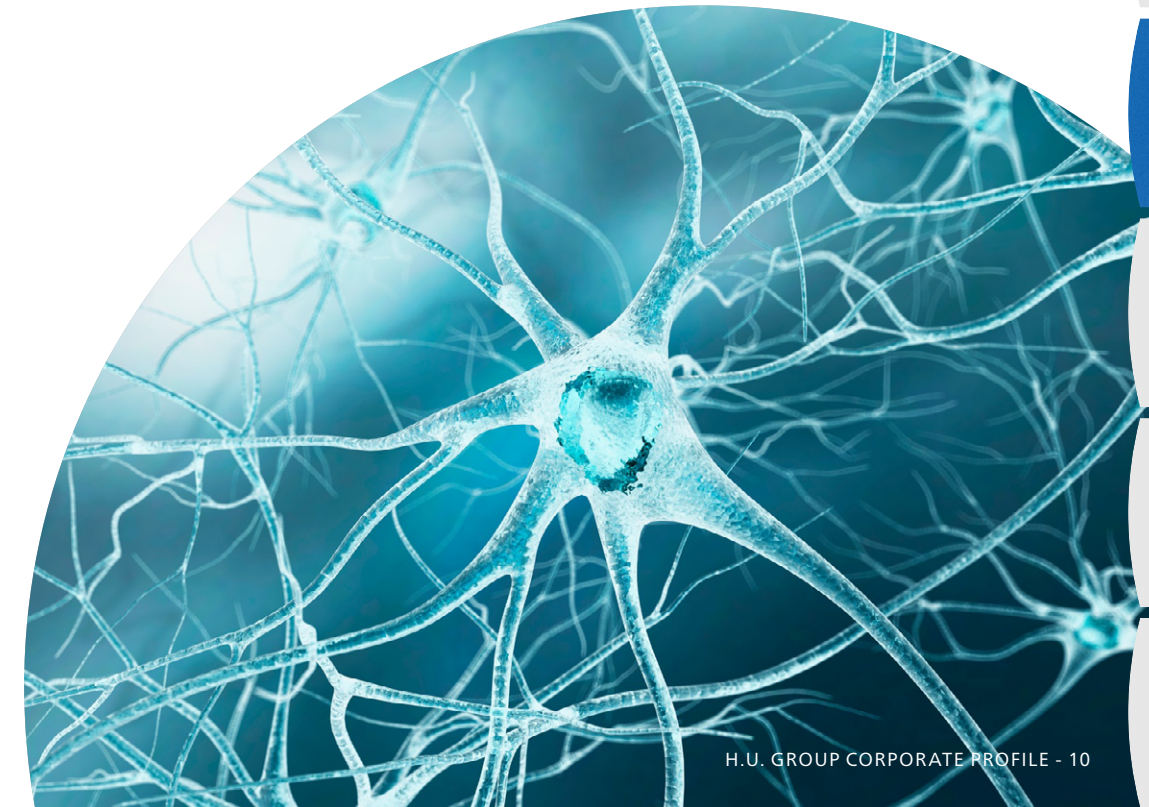
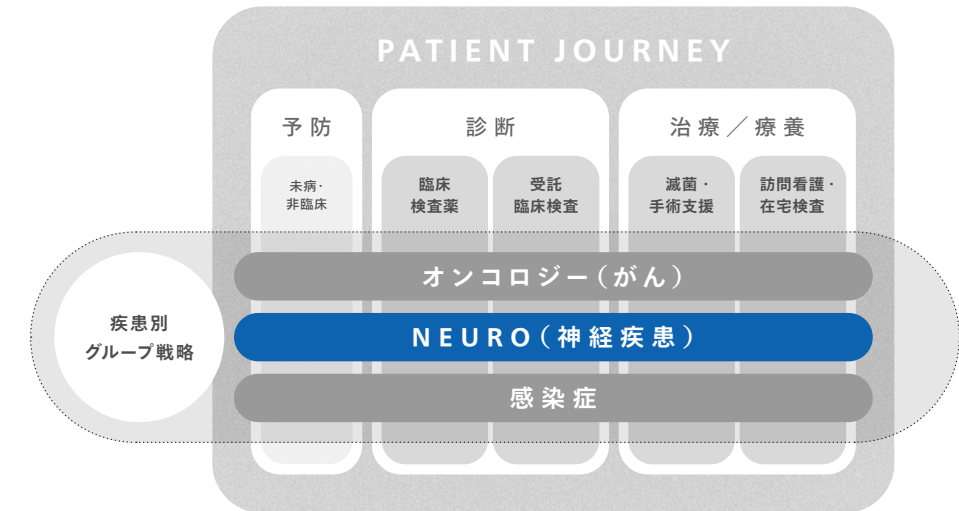
NEURO（神経疾患）

認知症の早期発見と生活を支える

認知症患者は、高齢化に伴い増加の一途をたどり、また、潜在的患者数も非常に多いことから、社会全体で向き合うべき大きな課題となっています。

H.U.グループはこの領域において、身体への負担に配慮した血液を用いた早期発見のための検査の提供や治療後のケアなど、患者さん一人ひとりに寄り添ったサービスを提供しています。

- アルツハイマー病の診断補助試薬の開発
- 受託検査による診断の補助
- 訪問看護による在宅でのケア



疾患別戦略

重点領域

DISEASE-SPECIFIC STRATEGIES

感染症

長年培った知見で、感染症に向き合う

感染症は、時代や地域に関わらず人々の生活に影響を及ぼし、その拡大は社会や経済にも大きな損失をもたらします。新たな感染症の出現や再拡大への備えは、これからも社会全体で向き合うべき重要な課題です。

H.U.グループは、1966年に世界で初めて梅毒の検査試薬の製造・販売を開始して以来、感染症に関わる検査薬や検査の領域で長年にわたり知見を蓄積してきました。そうした積み重ねをもとに、感染症の早期発見や適切な医療判断を支え、人々の健康に貢献しています。

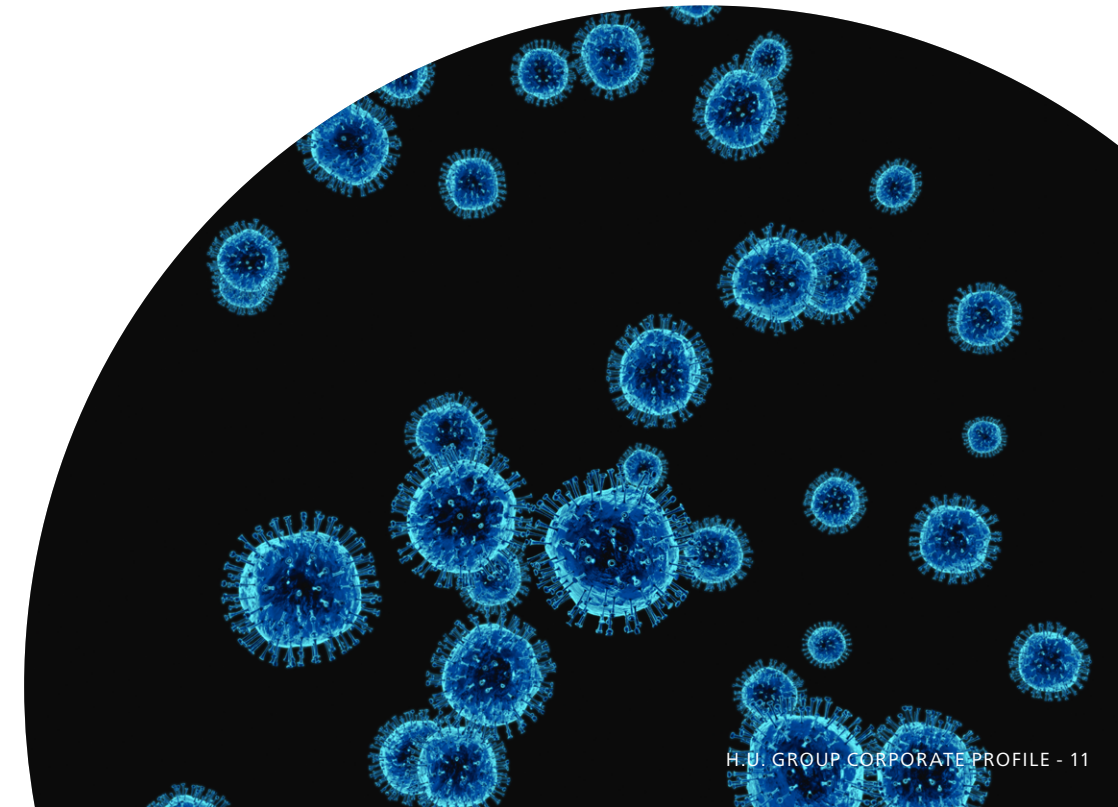
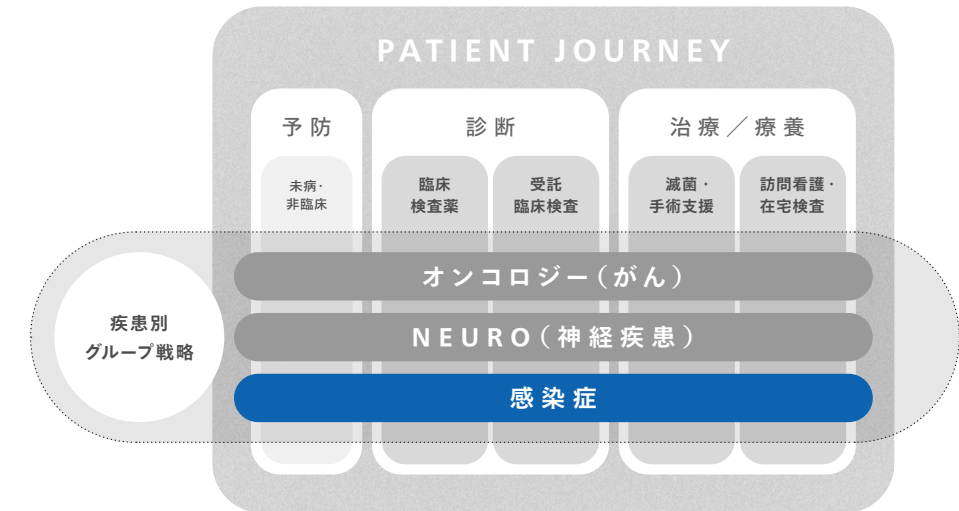
● インフルエンザなどの感染症の迅速検査キットの展開

● デング熱などの熱帯感染症項目（NTDs※）の拡充

※ NTDs：顧みられない熱帯病（Neglected Tropical Diseases）

● 突発的な感染症の流行に対応できる検査体制

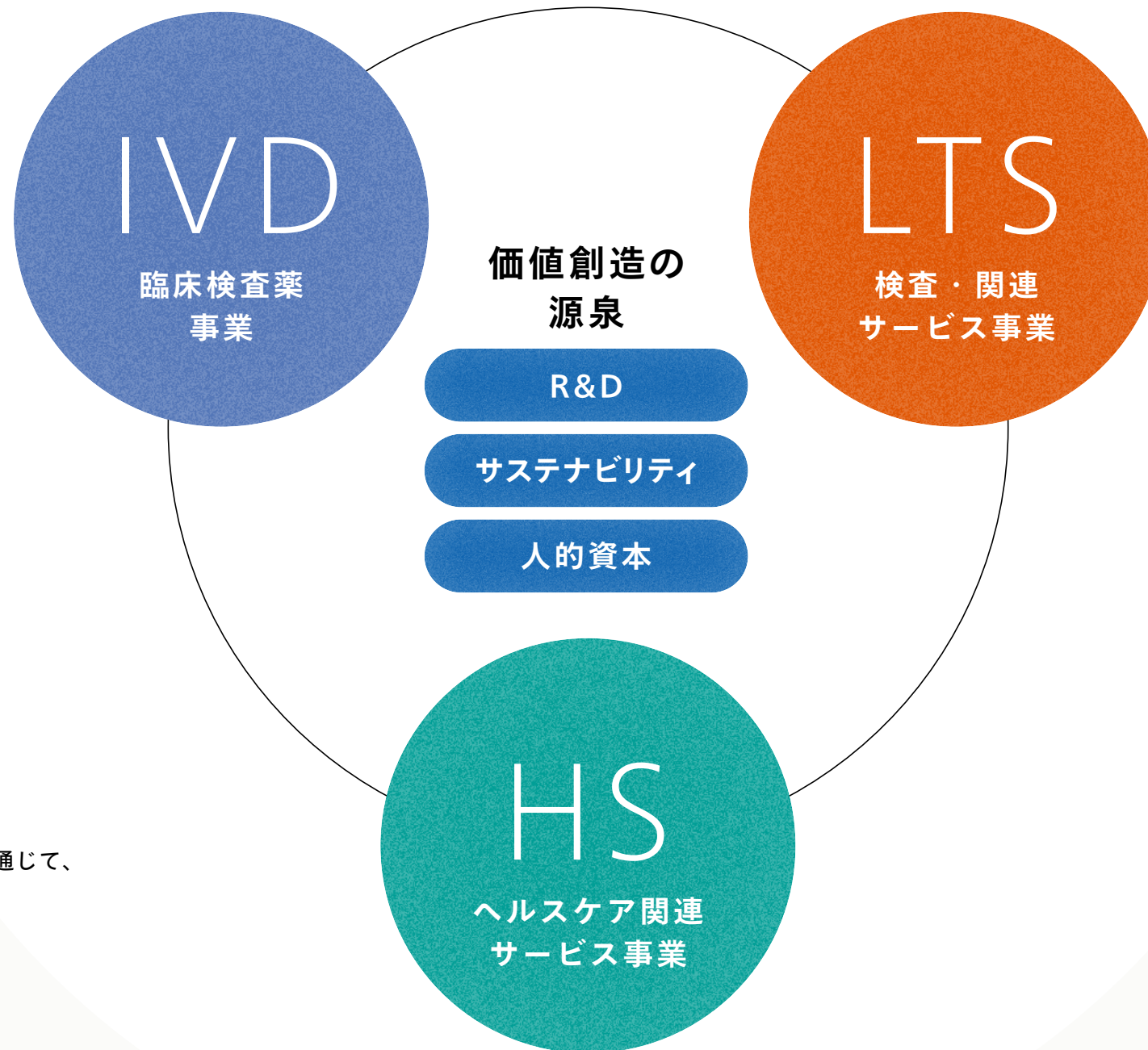
感染症領域以外にも、代謝、自己免疫、希少疾患などの領域を重点領域として事業に注力しています。



H.U.グループの主な事業 OUR BUSINESS

3つの事業と 価値創造の源泉

H.U.グループは、臨床検査薬事業、検査・関連サービス事業、ヘルスケア関連サービス事業の3つの事業を展開しています。
 また、3つの事業を支える基盤を価値創造の源泉として位置づけ、これらを通じて、PATIENT JOURNEYに寄り添った製品・サービスを提供しています。



IVD

臨床検査薬事業

In Vitro Diagnostics

The innovation engine powering global diagnostics

イノベーションから生まれる診断技術

富士レビオグループは、基礎研究から実用化までが一貫した開発体制のもと、日・米・欧に広がる研究基盤とネットワークを活かしながら、独自の価値を提供する診断技術の開発を進めています。この過程で生み出されるイノベーションは、単なる製品の開発にとどまらず、患者さんが歩む医療プロセス全体を変革させる新たな価値をもたらします。

1966年に世界で初めて梅毒の検査手法を確立して以降、感染症やオンコロジーの各領域でさまざまな診断技術を創出し、近年では血液からアルツハイマー病を検査できる富士レビオグループの診断薬が、世界で初めて米国FDAの承認を取得しました。この新しい診断技術は、患者さんの身体的な負担の軽減だけでなく、早期診断や創薬開発の可能性を広げることで医療プロセス全体への貢献が期待されています。



臨床検査の現場を支える プラットフォーム

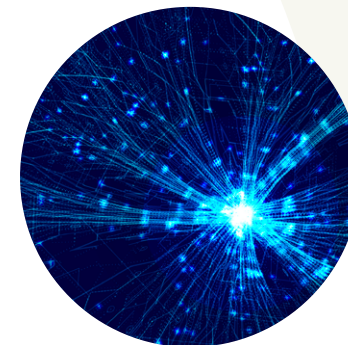
富士レビオグループは、1992年に独自の全自動化学発光酵素免疫測定システム「ルミパルス®」シリーズを開発、1997年には機器を必要としない簡易検査キット「エスプライン®」シリーズを開発しました。

これらのプラットフォームは、医療機関だけではなく、「H.U. Bioness Complex」をはじめとした各地の検査センターでも活用されており、富士レビオグループの診断技術はH.U.グループのネットワークを通じて、診断から治療に至る臨床検査の現場を支えています。

パートナーシップを通じた世界の医療現場への貢献

イノベーションによって生まれた確かな診断技術は、グローバルパートナーを通じて、世界中の患者さんが待つ臨床現場に届けられています。富士レビオグループのCDMO(受託開発製造)事業は、単なる受託製造にとどまらず、パートナー企業ごとの多様な事業環境に柔軟に対応し、基礎開発から最終製品の製造に至るまでさまざまな段階での協業を実現しています。この事業モデルにより、富士レビオグループだけでは届きにくい地域や医療現場にも、パートナーとの協業によって診断技術を広げることが可能になります。富士レビオグループは診断技術を提供する「コンテンツプロバイダー」として、より多くの人々が必要な検査にアクセスできる環境づくりに貢献しています。

さらに詳しい情報はこちらをご覧ください >



[関連企業一覧]

富士レビオ・ホールディングス株式会社
富士レビオ株式会社
富士レビオ・ダイアグノスティクス・ジャパン株式会社
株式会社先端生命科学研究所
Fujirebio Diagnostics, Inc. <US>
Fujirebio Diagnostics AB <Sweden>
CanAg Diagnostics (Beijing) Co., Ltd.
Plasma Services Group, Inc. <US>
Fujirebio Europe N.V. <Belgium>
Fujirebio Italia S.r.L.
Fujirebio Germany GmbH
Fujirebio Iberia SL <Spain>
Fujirebio France SARL
Fluxus, Inc. <US>
瑞必欧(上海)诊断技术有限公司
[Fujirebio China Co., Ltd.]

LTS

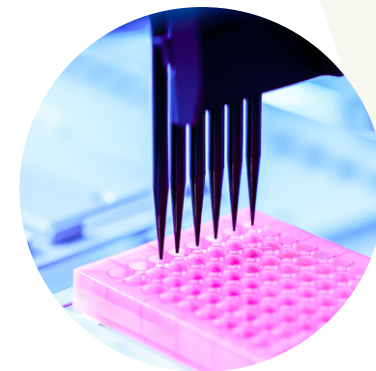
検査・関連サービス事業

Lab Testing and its related Services

半世紀にわたり医療機関へ 総合的な検査サービスを提供



さらに詳しい情報はこちらをご覧ください >



全国の医療を支える 世界最大規模の臨床検査センター

2023年に全面稼働した世界最大規模の「H.U. Bioness Complex」をはじめとする検査ラボラトリーでは、全国の医療機関から検体をお預かりし、各種検査を実施しています。最新機器やAIを活用した検査工程の効率化・自動化により、高品質かつ迅速な検査体制を実現し、毎日数十万件の検査を受託しています。特にエスアールエルを中心にがんや遺伝子、感染症、細菌、ウイルス検査等の特殊検査に強みを持ち、長年培った実績と知見を活かして全国の医療現場を支えています。

先進医療の発展に貢献する取り組み

個別化医療の技術革新に伴い、検査技術への期待はますます高まっています。エスアールエルでは、がん治療に欠かせないコンパニオン診断関連検査をはじめ、治療方針の選択を支える高度な検査の提供に取り組んでいます。また、新たな診断方法の開発につながる全ゲノム解析やプロテオーム解析などのオミックス解析に注力し、先進医療の発展に貢献しています。

ヘルスケア×ICTサービスの拡充

地域医療や予防医療の一層の充実が求められるなか、各種サービスとICT※1を融合させた新たなサービスの拡充にも取り組んでいます。検査情報のデジタル化を推進するとともに、医療機関向け業務支援SaaS※2と、生活者向けのPHR※3をグループとして提供することで、医療現場における検査結果のさらなる活用や業務効率化を支援しています。

※1 Information and Communication Technology

※2 Software as a Service

※3 Personal Health Record

【関連企業一覧】

株式会社エスアールエル

株式会社日本医学臨床検査研究所

株式会社東京セントラルパソロジーラボラトリー

H.U.ウェルネス株式会社

株式会社日本食品エコロジー研究所

エスアールエル・静岡がんセンター

共同検査機構株式会社

H.U.POCKeT株式会社

H.U.セルズ株式会社

株式会社医針盤

H.U. America, Inc.

株式会社KBBM

株式会社聖路加エスアールエル先端医療研究センター

HS

ヘルスケア関連サービス事業

Healthcare-related Services

ワンストップのトータルサポートで 病院や在宅療養者の生活を支え幅広いニーズに応える

病院業務を支える幅広いサービス

日本ステリは、病院内の中央材料室における院内滅菌や、自社センター（全国8カ所）での院外滅菌をはじめ、手術室や内視鏡室の支援サービス、医療機器の保守点検、物流管理搬送サービスの提供、また、中央材料室や手術室に関わる医療機器、物品、消耗品の販売など、病院経営を支える業務を幅広くサポートしています。こうしたサービスを通じて、病院内の作業効率向上やスケールメリットによる経済効果の創出に加え、医師や看護師が本来の医療業務に専念できる環境づくりを支援し、医療の質向上に貢献しています。

専門性と品質管理による安定的な運営支援

日本ステリは、医療機関を取り巻く環境変化や高度化するニーズに対応するメディカルパートナーとして、人財の専門性向上や業務品質の高度化、サービスの付加価値向上に取り組んでいます。専門性の高い技術者集団を形成し、蓄積したノウハウやデータを活用したソリューションの提供を通じて、医療現場の安定的な運営を支えています。

さらに、高品質なサービス提供と活動の透明性およびトレーサビリティの一層の向上を目指し、滅菌センターにおける品質マネジメントシステムの高度化を推進するとともに、業務プロセスの標準化・可視化を進め、継続的な品質管理活動を推進しています。

住み慣れた場所での生活を支える 在宅医療・介護事業

住み慣れた場所で自分らしく生活したい。このようなニーズに応えるため、StarQガイアでは在宅医療・介護事業を行っています。看護師が利用者の自宅に訪問してさまざまなケアを行う訪問看護を中心に、居宅介護支援や訪問介護の運営など、利用者の生活を総合的に支えています。また、利用者やご家族のニーズの高まりや多様化を背景に、より安心して質の高い在宅医療・介護を実現するためのサービス提供体制の充実を図っています。近年では、より個々のニーズに応じたサービス提供を目指し、保険外サービスの拡充にも取り組んでいます。

さらに詳しい情報はこちらをご覧ください >



[関連企業一覧]

日本ステリ株式会社
StarQガイア株式会社
株式会社ガイアメディケア
StarQケア株式会社

価値創造の源泉

R&D

SOURCES OF VALUE CREATION

グループの強みを活かした 新たな価値の創出

H.U.グループは、グループ全体のR&D組織の機能的な連携を推進しています。例えば、H.U.グループ中央研究所（HRI）が多様な新技術を早期に取り込み、新たな技術領域における製品・サービス開発を推進するとともに、IVD R&D組織は診断薬やシステム開発の技術基盤をさらに強化し、そしてそこにLTS R&D組織が持つ新規技術の評価・導入ノウハウを組み合わせて、独自性の高い新製品の早期開発や新規サービスの実装が可能となります。各R&D組織が、それぞれの活動に注力しながら、戦略・課題・リソースの連携を強化し、グループの強みを活かした新たな価値を創出することで、社会・医療・ヘルスケアへのさらなる貢献を目指します。

自社グループ開発試薬で検査性能の向上・安定供給を実現

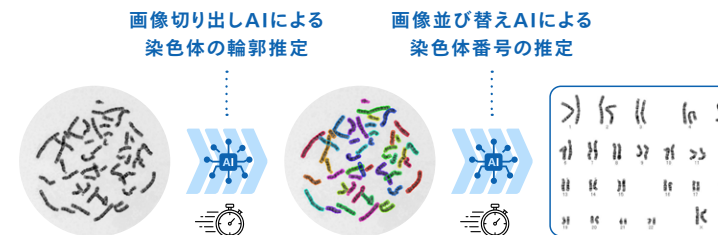
海外から輸入していた、検査の前処理工程で用いる核酸抽出試薬を、H.U.グループ中央研究所とIVD・LTS事業のR&D組織が連携して開発・製造することで、国内での安定供給を実現しました。さらに核酸増幅検査試薬も開発し、検査の生産性・性能向上やTAT※短縮を通じて、検査サービスの質の向上につなげています。

※TAT：Turn Around Time。検体の受付から結果が報告されるまでの所要時間



AI活用による検査プロセスの効率化

染色体検査は染色体の数や構造異常を特定する検査です。この検査の前工程である、顕微鏡画像の染色体の切り出し・並び替えをサポートするAIを自社開発して運用しています。このAIシステムにより、年間1万時間以上の作業時間を削減するとともに、検査員が異常の特定に注力できる体制を実現しました。


[さらに詳しい情報はこちらをご覧ください](#)

価値創造の源泉

サステナビリティ

SOURCES OF VALUE CREATION

社会課題の解決を目指して

H.U.グループは、医療を支える企業として、事業活動を通じて社会課題の解決に取り組み、誰もが安心して医療につながることをのぞける社会の実現を目指しています。

H.U.グループが取り組む6つの重要なテーマ



事業を通じた社会課題の解決



イノベーションの創出



新たな価値を創造する
人財の育成



環境負荷の
低減



持続可能な
バリューチェーンの実現



コーポレート
ガバナンスの強化



事業を通じた社会課題の解決

医療インフラとしての役割

H.U.グループの中核拠点「H.U. Bioness Complex」では、ヘルスケアの新たな価値共創を育むだけでなく、災害が発生しても業務を維持するためにBCP対策を強化しています。これにより、巨大地震などの発生後でも、検査ラボ棟・R&D棟は3日間（72時間）業務継続が可能です。

さらに詳しい情報はこちらをご覧ください



電力 - 非常用発電機

大規模な非常用発電機
3,750kVA×2基を設置



貯水 - 検査ラボ棟受水槽

大容量の受水槽（600トン）
大容量の排水槽、井水施設等
を設置



事業を通じた社会課題の解決

医療アクセス向上とグローバルヘルスへの貢献

国内にとどまらず、グローバルヘルスの課題解決にも取り組んでいます。特に感染症対策は世界中の人々の健康に直結する重要なテーマです。当社グループは1966年に世界初の梅毒検査製品を開発して以来、感染症領域に強みを持ち、この領域に取り組んでいます。

結核に対する

新たな診断法開発に向けて／
GHIT Fund※助成

結核は現在も世界の感染症による主な死因のひとつであり、迅速で精度の高い診断法が求められています。富士レビオグループではGHIT Fund※の助成のもと、超・高感度検出技術を活用し、尿検体から結核菌の有無を判定する検査試薬や、迅速診断に用いるポータブル小型デバイス等の開発を進めています。

※公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金

ガンビア共和国での

B型肝炎に対する
迅速検査キット承認取得

世界保健機関（WHO）によるとB型肝炎ウイルス（HBV）への慢性感染者は世界で2.5億人以上にのぼり、ガンビア共和国でもHBV感染が広く蔓延していると言われています。富士レビオグループは、同国においてB型肝炎迅速検査キット「ESPLINE™ HBeAg-hs」の製品登録承認を取得しました。同国におけるB型肝炎の母子感染予防や、医療体制の構築への貢献を目指しています。



従業員が「長く働きたい」と思える会社へ

一人ひとりが
成長し、挑戦し、誇りを持って
活躍できる環境をつくる

H.U.グループが持続的な成長を実現するためには、一人ひとりの従業員が能力を最大限発揮し、いきいきと働けることができる環境が不可欠です。私たちは、年齢や役職にとらわれず挑戦できる機会を広げるとともに、多様な人財がそれぞれの強みを活かしながら活躍できる組織づくりを進めています。

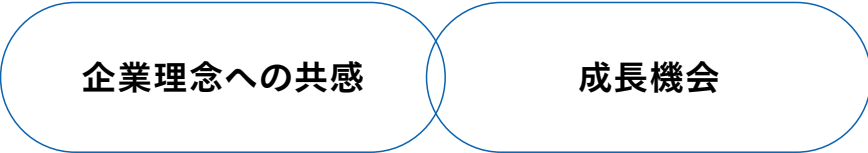
従業員の成長と会社の成長が好循環を生み出す人的資本経営を推進し、「この会社で長く働きたい」と思える企業を目指しています。



新たな価値を創造する人財の育成

企業理念への共感を通じて、一人ひとりが仕事の意義を見出し、挑戦し続けることができる環境を整えています。多様な成長機会を提供し、自ら考え、変革と価値創造を実現できる人財の育成を目指しています。

※エンゲージメントサーベイ上で以下2項目を定期的に確認



成長と挑戦を支える職場環境

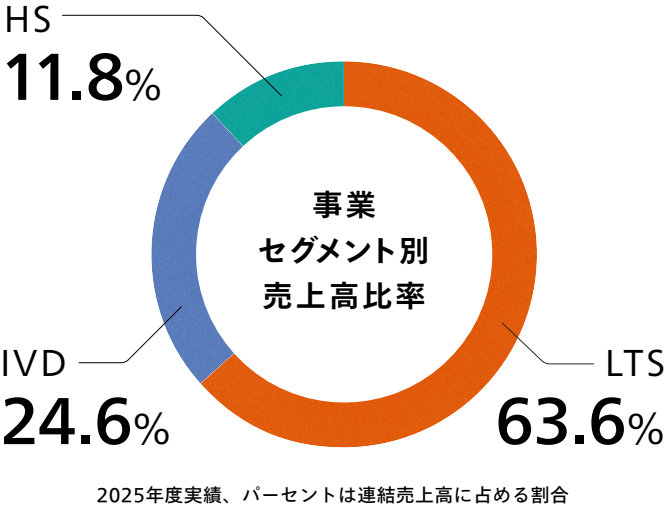
健康で自分らしく働くことができる環境を整え、長く活躍できる職場づくりを進めています。



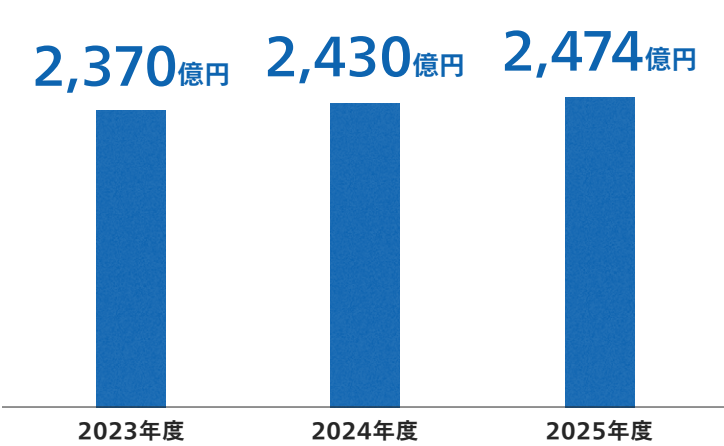
数字で見るH.U.グループ

ABOUT H.U.GROUP

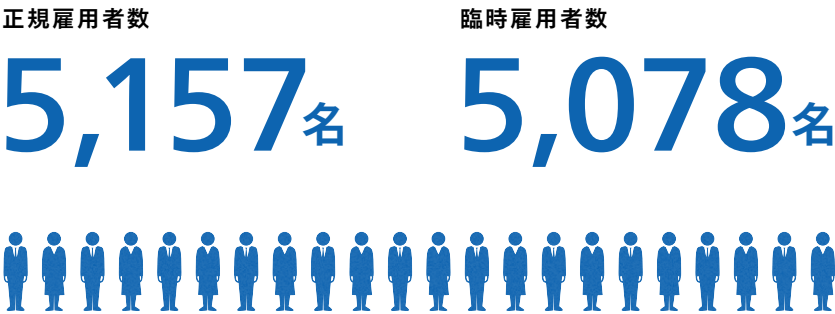
事業セグメント概況



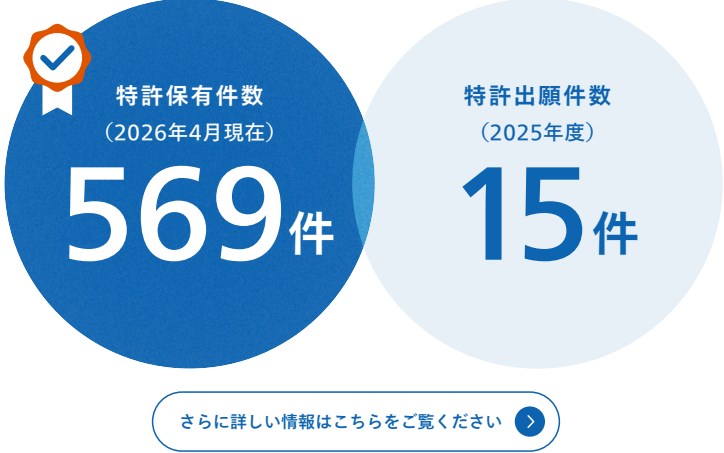
連結売上高



従業員 2026年3月末現在



特許



研究開発費 2025年度



CORPORATE PROFILE

会社名	H.U.グループホールディングス株式会社 H.U. Group Holdings, Inc.
本社所在地	〒107-0052 東京都港区赤坂 1-8-1 赤坂インターシティ AIR TEL: 03-6279-0801(代表)
代表者	取締役 代表執行役社長 兼 グループ CEO 石川 剛生
設立	1950年12月18日
資本金	9,309百万円（2026年3月末現在）
従業員数	5,157名（連結正規雇用者数）（2026年3月末現在）
株式上市市場	東京証券取引所プライム市場（証券コード：4544）
事業内容	持株会社としてのグループ全体の戦略立案、 IR・広報、経営執行の監督等
経営体制	指名委員会等設置会社

H.U.グループのHPはこちら

役員紹介はこちら

GROUP DATA

